

20170706 大腸癌研究会 プロジェクト研究「虫垂癌の臨床病理学的研究」
第一回会議 議事録

日時： 2017年7月6日（木） 14:00～15:00

会場： 四日市都ホテル 3F 明朝（西）

出席者：

プロジェクト委員

村田 幸平（委員長）、賀川 義規（事務局）

池田 正孝、井出 義人、伊藤 雅明、岩下 明德、岡村 修、沖 英次（代理出席
安藤 幸滋）、加藤 健志、金光 幸秀、塩見 明生、塩澤 学、竹政 伊知朗、
谷口 浩也、能浦 真吾、橋口 陽二郎、福長 洋介、水島 恒和、森田 俊治、八
尾 隆史、安井 昌義、山口 達郎（代理 松本 寛）（50音順）

欠席者：なし

オブザーバー

石黒 信吾(PLC JAPAN)、落合 淳志(国立がん研究センター中央病院)、小嶋 基
寛(国立がん研究センター中央病院)、坂本 一博(順天堂大学)、河野 眞吾(順
天堂大学)、柳井 優香(順天堂大学)、高橋 佑典(大阪国際がんセンター)、
高村 佳緒里(新潟県立がんセンター新潟病院)、長谷川 誠司(横浜市南都病院)、
松村 多恵(大阪労災病院)、岸本 光夫(京都府立医科大学)、富樫 一智(福島
県立医科大学海津医療センター)（順不同）

1. 本プロジェクトの概要説明（村田委員長より）

(ア) 後ろ向きに虫垂癌の臨床病理学的検討を行い、虫垂癌の取り扱い規約
をつくることを目的と考えている。

(イ) TNM分類第8版が2017年1月に出版された。第7版との大きな違い
は、LAMNを癌として扱うことと、腹膜播種の分類が変更されている
こと。

(ウ) TNM分類では粘液癌の分化度（Grade）がstage IVの細分類を決定す
る因子になっている。本邦において病理医の診断基準を明確にして行
くことが必要である。

2. 大阪大学の関連病院で予備症例集積をしたところ、300例程度集積され、

現在データ解析中。

3. 橋口委員より以下のコメント

(ア) 日本の大腸癌取り扱い規約第 8 版には虫垂癌は含まれていないが、来年発刊予定の規約第 9 版には、虫垂癌の規約を入れる予定になっている。おそらく TNM 分類第 8 版の日本語版を外挿することになる。

4. LAMN (低異型度虫垂粘液性腫瘍) について (病理委員からの意見)

(ア) 今回の TNM では Tis として扱われている。

(イ) 本邦ではほとんどが腺腫として扱われて来ているのではないか。また、フォローアップもされていないのではないか。

(ウ) これまでの病理医が LAMN を認識して、どの程度記載されているかも不明である。

5. 本プロジェクトの目的と症例集積について (会場からの意見)

(ア) 本研究の目的を何にするか明確にしてほしい。

(イ) 根拠をもって症例集積数を決めてほしい。

(ウ) カルチノイドについても検討してほしい。

(エ) 虫垂癌は術前診断が生検などの病理診断が困難であり、画像診断が主になる。また、虫垂切除して癌やカルチノイドと診断されることもある。

(オ) 虫垂切除を他院でおこない癌や腺腫と診断されて、追加切除を行う場合がある。この場合の追加切除がどれくらい必要か、リンパ節郭清が必要かなど検討してほしい。

(カ) 術前 CEA と CA19-9 もデータ集積はしてほしい。

6. 決定事項

(ア) 虫垂癌だけでなく、虫垂腫瘍全般 (カルチノイド、腺腫も含む) を集積し、予後情報等の詳細な検討は癌のみとする。臨床病理学的事項および腫瘍マーカー (CEA および CA19-9) も可能な限り集積。

(イ) 阪大関連施設のデータを解析したのちに研究計画書を作成し、大腸癌研究会の倫理審査を経て、各施設の IRB に向け、研究開始。それまでに IRB 不要の予備調査 (症例数のみの調査) を行う予定。